

平成23年11月1日

香川大学瀬戸内圏研究センター長

本城凡夫特任教授が、「平成23年度水産功績者表彰」を受賞しました！

香川大学瀬戸内圏研究センター長の本城凡夫特任教授が、このたび「平成23年度水産功績者表彰」を受賞しました。これは、社団法人大日本水産会（※）が、水産業の発展に貢献した個人を表彰するもので、本城教授の永年にわたる赤潮関連学問分野の研究により、我が国の赤潮研究の基礎を築くとともに、その対策技術の開発などを通して水産養殖業の発展に大きく貢献したことが評価され、今回の受賞となりました。

本城凡夫特任教授（農学博士・九州大学名誉教授）は福岡県出身で、現在67歳。九州大学大学院の博士課程を修了後、同大農学部助手を経て、全国各地の水産庁の研究所において研究を進めてきました。平成8年には、九州大学に戻り教授として教育と研究に尽力し、平成21年からは香川大学瀬戸内圏研究センター長に着任し、現在に至っています。

同氏は赤潮生物の専門家として、赤潮の発生機構についての研究を学位論文にまとめるとともに、魚類養殖に多大な被害を与えた赤潮生物、あるいは貝類養殖に被害を及ぼした新型の赤潮生物について研究を進め、その増殖生態や斃死機構を明らかにし、発生予測をはじめとした被害軽減に貢献しました。また、海苔の色落ちが大きな問題となった有明海や八代海において、有害赤潮生物の発生機構などを詳細に研究しました。さらには、二枚貝をバイオセンサーに用いて環境を診断する装置「貝リングル」を開発するなど、赤潮のみならず、その関連分野において幅広く研究を展開し、我が国の赤潮研究の基礎を築くとともに、その対策技術の開発を通して水産養殖業の発展に大きく貢献しました。

さらに同氏は、赤潮研究を通じた都道府県研究機関や大学との共同研究の推進や、産業界との連携を推し進める等、研究と行政等を繋ぐコーディネーターとして力を発揮するとともに、留学生の指導など国内のみならず世界各国の研究者の育成にも尽力しました。また日本水産学会等の要職を歴任するとともに、豊富な海外経験をもとに国際学会・シンポジウム等を通じて、国際交流にも大きく貢献しました。漁業者や一般市民の啓蒙にも力を注ぎ、各市町村や漁業協同組合の求めに応じて精力的に講演も行っています。

このように、赤潮問題に関する研究開発や研究従事者の育成などを通じて、日本における赤潮研究並びに水産養殖業の発展に多大な功績を残したことが今回の受賞につながりました。

香川大学瀬戸内圏研究センター長として着任した平成21年からは、海苔の色落ち対策や牡蠣の斃死対策など、漁協や自治体等との連携により精力的な活動を続けています。

なお表彰式は、桂宮宣仁親王の台臨と農林水産大臣他の臨席により、平成23年11月25日に東京・石垣記念ホールにおいて執り行われます。

※社団法人大日本水産会

水産業の振興をはかり、経済的、文化的発展を期することを目的として、明治15年（1882年）に設立された、わが国唯一の水産業の総合団体。同会は、水産業にかかわる我が国の400余の代表的な団体や会社を会員として構成される。（同会ホームページより抜粋）



お問い合わせ先

- 香川大学瀬戸内圏研究センター副センター長 多田 邦尚
- TEL：087-891-3148

※上記不在の場合 香川大学 学術室 研究協力グループ 井上
TEL：087-832-1316